

日本フランチャイズチェーン協会における プラスチック削減の取組み

おおさかプラスチック対策 推進ネットワーク会議

一般社団法人
日本フランチャイズチェーン協会

Copyright 2019 Japan Franchise Association All Rights Reserved.



(1) (一社)日本フランチャイズチェーン協会の概要①

- **設立** : 1972年[当時の通産大臣(現在の経産大臣)から認可]
- **目的** : フランチャイズ・システムの健全な発展を図る
- **活動** : 調査研究、規範策定、普及啓発(広報活動)、指導・相談(FC相談)、社会貢献(防犯・防災対策、環境対策)、会員交流、国際業務等
- **構成** : フランチャイザー及びフランチャイズ・ビジネスに関心を持ち当協会の趣旨に賛同する企業
 - ・外食業 : ファストフード、居酒屋、コーヒーショップ等
 - ・小売業 : **コンビニエンスストア**、自動車関連、洋菓子等
 - ・サービス業 : レジャーサービス、リース・レンタルサービス等
- **役員** : 29名
会長(1名)、副会長(3名)、専務理事(1名)※、常任理事(7名)、理事(17名)
※常勤以外は正会員企業の代表者
- **会員数** : 計511社(2019年7月現在)
正会員 102社、準会員 16社、研究会員 109社、賛助会員 284社

(1) (一社)日本フランチャイズチェーン協会の概要②

■全国におけるフランチャイズチェーンの市場規模(2017年度)

項目	フランチャイズ総計	うち、コンビニエンスストア
総売上高	25兆5,598億円(15兆3,510億円)	11兆252億円(10兆9,788億円)
チェーン数	1,339チェーン(347チェーン)	22チェーン(20チェーン)
総店舗数	26万3,490店(13万3,538店)	5万7,956店(5万7,791店)

※()内は、協会会員の数値

■全国におけるコンビニエンスストア店舗数(2019年2月末現在、協会会員の数値)

チェーン名	店舗数	チェーン名	店舗数
コミュニティ・ストア	62(12)	ポプラ	475(32)
セイコーマート	1,202(一)	ミニストップ	2,197(91)
セブン-イレブン	20,876(1,251)	デイリーヤマザキ	1,473(129)
ファミリーマート	16,430(1,341)	ローソン	14,659(1,151)
		合計	57,374(4,007)

※()内は、大阪府内の数値

Copyright 2019 Japan Franchise Association All Rights Reserved.

(2) レジ袋削減の取組み①

～ (一社)日本フランチャイズチェーン協会コンビニエンスストア8社にて実施 ～

① レジ袋の小型化・薄肉化の取組み

* 99年からレジ袋の薄肉化・小型化を実施。実施前対比、**約2/3の厚みまで薄肉化**。
主要サイズについては、スーパーの約1/4の重量まで軽量化済み

② 声かけの徹底

* レジテープでの対応。「このままでよろしいですか。」等の声かけ運動の実施。

③ 適正サイズのレジ袋使用の徹底

* 商品にあったサイズのレジ袋の使用を徹底。

〔JFA統一ポスター〕

④ 消費者への告知

* JFA統一ポスター(経済産業省・環境省後援)を各社全店舗に掲示
* レジ袋に「節約呼びかけ」文言の印刷。
「レジ袋ご不要の方はお申し出ください」
「マイバッグのご持参にご協力ください」
* レジ画面、店内放送等による簡易包装協力の呼びかけの実施。



⑤ 自治体と連携した取組み

* 「スタンドPOP」や「ステッカー」等の作成。店舗を活用した連携キャンペーン。

加温及び冷蔵・冷凍商品が主力ということもあり、レジ袋辞退率が上がらない悩み

Copyright 2019 Japan Franchise Association All Rights Reserved.

NEWS RELEASE



株式会社 **セブン&アイ** HLDGS.

2019年5月8日

セブン&アイグループの環境宣言 『グリーンチャレンジ GREEN CHALLENGE 2050』

4つのテーマを定め、2050年までに実現を目指します。

株式会社セブン&アイ・ホールディングス（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：井阪 隆一）は、社会ニーズの変化や環境問題等、様々な社会環境の変化に対応するため、セブン&アイグループの環境宣言『GREEN CHALLENGE 2050』を定め、お客様やお取引様をはじめ全てのステークホルダーの皆様と共に“豊かで持続可能な社会”の実現に向けて取り組んでまいります。また、新たに4つのイノベーションチームを立ち上げ、グループ横断での取り組みを推進いたします。

セブン&アイグループは、これまで様々な社会環境の変化に、価値ある商品やサービスの提供を通じて対応し、豊かで便利なくらしの実現に努めてまいりました。その一方で、様々な環境問題や外部不経済等の社会課題が顕在化し、社会の持続的発展にはその解決が急務となっています。

このような現状認識に基づき、当グループでは、国内で22,000店舗（19年2月末）を超える店舗ネットワークとサプライチェーン全体で、さらなる環境負荷低減を推進し、豊かな地球環境を未来世代に繋いでいくため、グループ全従業員が一丸となって取り組んでまいります。

1. 環境宣言名称：
セブン&アイグループ『GREEN CHALLENGE 2050』
2. 『GREEN CHALLENGE 2050』の内容



Copyright 2019 Japan Franchise Association All Rights Reserved.

セブン&アイグループ環境宣言 GREEN CHALLENGE 2050

目指す姿	具体的な取組	2030年の目標	2050年の目指す姿
脱炭素社会	CO2 排出量削減	グループの店舗運営に伴う排出量 30% 削減（2013年度比）。	グループの店舗運営に伴う排出量 80% 以上削減（2013年度比）。
		自社の排出量（スコープ 1+2）のみならず、スコープ 3 を含めたサプライチェーン全体で削減を目指す。	
循環経済社会	プラスチック対策	オリジナル商品（セブンプレミアムを含む）で使用する容器は、環境配慮型素材（バイオマス・生分解性・リサイクル素材・紙、等）50%使用。	オリジナル商品（セブンプレミアムを含む）で使用する容器は、環境配慮型素材（バイオマス・生分解性・リサイクル素材・紙、等）100%使用。
		プラスチック製レジ袋の使用量ゼロ。使用するレジ袋の素材は、紙等の持続可能な天然素材にすることを目指す。	—
	食品ロス・食品リサイクル対策	食品廃棄物を発生原単位（売上百万円あたりの発生量）50%削減（2013年度比）。	食品廃棄物を発生原単位（売上百万円あたりの発生量）75%削減（2013年度比）。
食品廃棄物のリサイクル率 70%。		食品廃棄物のリサイクル率 100%。	
自然共生社会	持続可能な調達	オリジナル商品（セブンプレミアムを含む）で使用する食品原材料は、持続可能性が担保された材料 50%使用。	オリジナル商品（セブンプレミアムを含む）で使用する食品原材料は、持続可能性が担保された材料 100%使用。

包装パックを環境配慮型に変更

資源の枯渇などの環境問題が深刻化するなか、環境にやさしい商品開発に積極的に取り組んでいます。

サラダカップ容器の切り替え



2014年以降、オリジナルの「サラダカップ容器」を石油由来のPET容器から、リサイクルPETや植物由来の原料を使用したバイオマスPETなどを配合している環境配慮型PET容器に切り替えています。2015年に切り替えが完了し、年間約1,790tのCO₂を削減しています。

植物由来インキの使用

おにぎりやサンドイッチ、パンなどのパッケージ印刷には、環境に優しい「植物由来インキ」を使用しています。植物由来インキとは、植物由来の樹脂を原料とするインキです。従来のインキと比べ、石油の利用を抑え、CO₂排出量を削減し、環境負荷の低減につながっています。



このパッケージフィルム本体には、環境にやさしい植物由来の原材料を使用し、印刷には、環境に優しいライシンクを使用しています。

このパッケージのインキには、環境に優しい植物由来の原材料を使用しています。

このパッケージの本体フィルムおよびインキには、環境に優しい植物由来の原材料を使用しています。

セブンカフェのカップや備品は環境にやさしい素材でできています

ドリップコーヒー「セブンカフェ」のホットカップは、全国森林組合連合会から「間伐材マーク」の使用を許可された間伐材を使っています。カップの側面には全国森林組合連合会の認定を受けた「間伐材マーク」を印刷。ふたは軽量化し、コーヒーフィルターにはバイオマス原料を使用、ストローはバイオマスPETを配合するなど、年間約10億杯を販売する「セブンカフェ」全体で資源の有効活用を図っています。

セブンカフェの取り組み



働く方の生活を支えるセブンプレミアム商品

高齢化や女性の社会進出、単身世帯の増加を背景に2007年にプライベートブランドとして誕生した「セブンプレミアム」。調理時間を短縮できるうえに、保存も可能な商品を多く揃えており、働く女性を中心にニーズが高まっています。



Copyright 2019 Japan Franchise Association All Rights Reserved.

■セブン-イレブンの店頭を活用したペットボトル回収について

【目的】

- ① 廃棄物の減量・海洋ごみ問題
- ② 資源の有効利用(資源の国内循環化)
- ③ 再生ペットボトル化(CO₂排出量削減)
- ④ 販売量日本一チェーンの販売者責任
- ⑤ 消費者参加型リサイクルの推進(CSR)

【現状の課題】

- ・・・ マイクロプラ・最終処分場の逼迫
- ・・・ 中国への輸出ストップ
- ・・・ 石油由来よりもCO₂を63%削減可
- ・・・ 飲料を販売する企業としての責任
- ・・・ 日々利用するコンビニでリサイクル

【内容】

ペットボトル回収機の店頭設置

- ・導入店舗数 : 東京及び埼玉県中心に約300店舗設置
- ・導入予定機 : 株式会社寺岡精工 DRV-100
- ・補助金申請 : CO₂型リサイクル高度化設備導入促進事業
(公益財団法人) 廃棄物・3R研究財団
- ・導入時期 : 平成29年12月～30年2月までに設置完了



■ 廃プラスチックを取り巻く環境

中国等の輸入規制



2017年ペットボトル
国内販売量 587千t/年
回収量 541千t/年
輸出量 252千t/年
リサイクル量 498千t/年
リサイクル率 84.8%
(PETボトルリサイクル推進協議会)

国内リサイクル施設 処理能力超過



国内ペットボトル処理能力
推定 約50万t/年

処理能力の不足による
リサイクル処理単価の高騰

不法投棄の増加の恐れ

海洋ゴミ 生態系破壊



年間800万tの
プラごみが海へ流入

2050年までに、世界の海の
魚の総重量を海のプラごみ
の重量が上回る
(世界経済フォーラム・WEF)

ペットボトルの国内資源循環が急務

■ 海洋ごみ対策

● 海洋ゴミに対する世の中の動き

海洋ごみ対策



プラスチック製
ストロー・カップ・レジ袋の
使用に対する批判

**悪いのはポイ捨て
プラスチックが悪者に**

海洋ごみの原因



海に投げ込む人はいない
ポイ捨てが、側溝から河川に
陸域から海に流れていく

**ポイ捨ての防止と
陸で止めることが重要**

販売者責任



ペットボトル飲料を販売する
チェーンとしての責任。
安全性・保存性・軽量

**ペットボトル素材以上に
優れた容器はない**

海に流れ込む廃プラスチックを陸で食い止める必要性

■ 連携のスキーム

● 全体スキーム概要



使用済みペットボトルをリサイクル原料としてPB飲料に再製品化

利用者 〉洗浄・フィルム キャップ除去 本部 〉ポイント付与 ペットボトル5本 = 1 nanaco ポイント	本部 〉機器設置 日本財団様 〉機器助成 店舗 〉説明・保管	収集運搬組合様 〉収集運搬 月～金 専用回収 行政協力を実現	リサイクラー様 〉異物除去 洗浄・選別 破碎・溶融 再資源化	プリフォーム会社 〉ボトルtoボトル 飲料メーカー様 〉PB商品化 店舗 〉仕入れ・販売
---	--	---	---	--

12 繰り返し循環させることで、資源の有効利用を最大限に
 (ペットボトルに戻すからこそ、本物の資源循環が可能)

■ 目指す姿

● 市民運動に



身近なコンビニがペットボトルのリサイクル拠点として地域貢献

● 産官民で地域事業を共創

【それぞれが、今出来ることをする】

- 市民 : キャップ除去・店舗への持参
- セブン店舗 : 利用方法説明・回収保管
- 自治体 : 適正排出の周知、広報活動
- 本部 : 機器設置・コスト負担
- 日本財団 : 設置支援

【みんなでうれしい未来をつくる】

- ・行政回収量の削減・適正排出場所確保
- ・市民の利便性や環境意識の向上
- ・資源の有効活用、循環型社会の構築
- ・よりきれいな街、川、海の実現
- ・SDGsの推進と持続可能な社会の構築

12 ペットボトルのリサイクルを通じて、資源を大切にする心を育む市民運動に

■ 設置店舗 オーナー様・お客様からのご意見

オーナー様からのご意見

- ・近隣の親子連れや小学生の利用が多い。**小学校での環境教育の一環として使ってくれている**
- ・プラスチック問題は喫緊の課題。本部と一体になって、販売者としての責任を果たしたい
- ・繰り返し利用してくださるお客様が大半で、大きなご評価を頂いている



(テスト機 設置店)

お客様からのご意見

- ・継続的に利用することで、ポイントが貯まるので、ずっと設置して欲しい
- ・駅に向かう場所にあるので、通勤時に利用できるのがありがたい
- ・子供が喜ぶので近くの店にも置いて欲しい
- ・**ポイントが貯まるので、買い物のついでに店舗まで持参している。**
- ・日々利用する店舗で、**海洋ゴミ対策に貢献できることは大変にありがたい。**

12

■ ペットボトル回収スキームへの注目



5/11,12
G20新潟農業大臣会合への出展



5/22
国連環境計画UNEP 大阪シンポジウム



6/15,16
G20軽井沢環境大臣会合への出展



6/28,19
G20 大阪サミットへの出展

■軌道に乗せることで得られる社会的効果

循環経済 Circular Economy

「分別排出・再生商品選択」という消費者の積極的な行動化を誘い、回収・再生・商品化・販売まで一貫したバリューチェーンを構築。貴重な資源を再生して消費者の手に還します



持続可能な開発目標 (SDGs) に向けて

目標12:

持続可能な消費生産形態を確保

目標13:

気候変動に具体的な対策を

目標14:

海洋と海洋資源の保全・持続可能な利用

目標17:

パートナーシップ

14



ご清聴ありがとうございました。